



規模を勘定に入れる

校長

作家の村上龍氏がナビゲーターを務めるテレビ番組で、作詞家・プロデューサーの秋元康氏を特集していました。二人の話の中で、村上氏が日韓のエンターテインメント業界を比較して「韓国は人口が5000万人しかいないから初めから世界を目指す。日本は1億2000万人いるからなんとなく国内で済ます（『カンブリア宮殿』今年9月15日）」と述べていました。

それを聞いて、アニメーション監督の宮崎駿氏が語っていたことを思い出しました。日本と世界の観客の違いを意識しているかと問われた宮崎氏は「何も分からない、目の前にいる子供たちに向かって作っている」と答え、それに続けて「自分達のアニメーションが成り立ったのは日本の人口が一億を超えたからなんです（『熱風』2009年1月号）」と述べています。

その言葉を常用する人が1億人以上いるか。それとも5000万人、3000万人しかいないか。つまり、その言葉を話す人の規模によって誰に向けて作るか、どんな内容を作るか、時にはどんな言語を使うかさえ変わってくる——日本で暮らす私たちの多くは、あまり思い浮かばない考え方だと思います。

規模の話は国の政策にも当てはまるようです。ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの北欧三国は「高税率、高福祉」で知られています。「日本でも同じような政策を」という意見がある一方、「人口規模があのからい（500～900万人）だからできること」という声もあります。

何かを決めるときには、その規模を併せて考える必要がありそうです。

私の立場では、学校経営がそれにあたります。保護者の皆様に関係するところでは、とりわけ学校行事が大きな考えどころです。

コロナ前は運動会も学芸会も全校で集まって行っていました。保護者はもちろん、来賓の方々も応援する中で校庭に響き渡る子供たちの歓声や、暗くなった体育館で息を潜めた大人たちが見つめる中、スポットライトを浴びて演じる子供の姿を懐かしく思う方もいらっしゃるでしょう。

今年、コロナ前と同様に観客制限なしで運動会を行う学校もあると聞きます。では、本校でそれができるかという、それは難しいところですね。

区内に65ある小学校の内、児童数が一番多い学校は約1000人、少ない学校は約200人です。本校は685人で10番目に大きな学校になります（もちろん、人数の「多い、少ない」は「良い、悪い」ではありません）。

コロナ以降、学校では常に「密の回避」を考えています。本校のような大規模校では特に注意が必要になります。同じ「小学校」で同じ「行事」でも、児童数という規模によってできることは違ってきます。

今月には体育科学習発表会と高小フェスティバルが、来月には展覧会があります。充実の秋となりそうです。本校の規模で、現在できる最大限を考えながら行っていきます。

月	火	水	木	金	土	日
凡例 ①：1校時 (5・6) : 5、6年					1 都民の日	2
3 全校朝会	4 校庭 15:30	5 安全指導委員会⑤ 校庭 14:30	6 環境委員会(放送) 校庭 15:30	7 体育科学習発表会・ 全学年鑑賞 校庭 15:00	8 14:00	9 校庭 15:00
10 スポーツの日	11 全校朝会 校庭 15:30	12 午前授業 校庭 14:00	13 図書委発表 校庭 15:30	14 生活科遠足(1・2) 校庭 15:00	15 校庭 14:00	16 校庭 15:00
17 全校朝会 読書月間(2学期)始	18 きょうだい学年遊び 校庭 15:30	19 秋季歯科検診(全)AM 金曜時程 校庭 15:00	20 校庭 15:30	21 午前授業(6-1除く) 校庭 14:30	22 校庭 14:00	23 校庭 15:00
24 全校朝会 高小フェスティバルお店紹介	25 5時間授業 避難訓練 校庭 15:30	26 クラブ⑤ 校庭 15:00	27 高小フェスティバル⑤⑥ 校庭 15:30	28 校庭 15:00	29 校庭 14:00	30 校庭 15:00
31 全校朝会 校庭 15:30	※緊急事態宣言の延長などにより、変更になる場合があります。 その際には学校メールでお知らせします。					

「頑張る」を楽しんで！

～ビジャレアルの指導者から学ぶ～
体育的行事委員長

私たちは、「頑張れ」という言葉を子供たちに使います。子供を応援する気持ちを伝えたいとき、目標に向かって努力してほしいときなどによく耳にします。しかし、「頑張る」ということは、とても難しいものでもあります。私たち大人は、「頑張る」過程で、くじけそうになったり、苦痛を感じたりした経験を誰もがもっているはずです。

そんな折、私は、ビジャレアルの子供たちについて書かれた記事を読みました。ビジャレアルとは、スペインの地名であり、昨年ヨーロッパリーグで優勝したクラブチームの名前でもあります。

「ビジャレアルの子供たちは、『エンジョイ』と言われて育っている。『エンジョイ』という言葉には、失敗を恐れずに踏み出し、たとえ失敗してもそれを糧にできるように。一瞬一瞬を味わってね。という意味が込められている。」

私は、「頑張る」ことも大切だが、『エンジョイ』することも大切なのだと考えさせられました。

今年度も体育科学習発表会という形で実施し、日頃の体育科学習の成果を発表します。子供たちは、学年に応じたためあてを達成するために日々頑張っています。失敗を恐れず、その過程を『エンジョイ』できる体育科学習発表会となるよう、温かく大きな拍手をよろしくお願いいたします。そして、子供たちのいきいきとした最高の笑顔をお楽しみください。

<体育科学習発表会>

雨天延期の場合は、

**3時間の通常授業、
公開無し**となります。

ご理解ください。



高学年の窓（5年）

委員会活動が始まりました！

高松小のみなさんが、気持ちよく生活できるよう意気込みを書きました。

代表委員会では学校をよくするために委員会で考え、全校によびかけます。最初はきんちょうしたけど、クラスの代表としてがんばります。

集会委員会はみんなを楽しませる委員会です。みんなの前で発表したり、きんちょうしたりするけれど、自分も楽しみながらやりたいです。

給食の時間、みんなに聞き取りやすく、分かりやすく放送しています。きかくを考えるのも楽しいです。

ぼくが入っている飼育委員会では、うさぎのシュガーのお世話をします。命をあずかるので、がんばっています。

私は放送委員会です。みんなが楽しく学校生活をおくれるように、セリフや時間をまちがえないようにしています。

ぼくは、環境委員会です。今は、外国の子たちのためにキャンプを集めています。絵をかくことをがんばっています。

わたしは保健委員会です。みんながこまらないよう毎日せつけんをほじゅうしたり、健康観察表をチェックしたりします。

私は広報けい示委員会に入っています。みんなが見て「守ろう。実行しよう。」と思えるポスター作りをがんばっています。

かんきょう委員会に入っています。緑がたくさんあって生き物なども、住みやすいかんきょうの学校にしたいです。

図書委員会の読み聞かせで低学年に大きな、大きな声で心を込めてすらすらと読めるように頑張っています。

体育委員会の体育倉庫のかた付けをがんばっています。みんながどこになにかがあるか分かるようにきれいにしたいと思います。

ぼくは、放送の時間に間に合うように、よく時間を見ています。この仕事は責任重大なのでやりがいがあります。

10月の生活目標

自分からすすんで仕事をしよう

委員会活動、クラブ活動では、6年生を中心にどの子も自分の役割を考えて活動に取り組む姿が増えてきました。非常に頼もしい限りです。各学級においても、係活動や当番活動の中で、最後まで責任をもって取り組むことで、また一つ成長します。

ご家庭によってはお子さんに、お手伝いを決めた仕事として任せている場合もあるかと思います。できて当たり前のことでも、「ありがとう。」「もうやってくれたの。」「上手にできているね。」の一言で、「またやってみよう。」「また頑張ろう。」と、子供たちの意欲が変わってきます。子供たちのやる気や頑張りを、ご家庭でも学校でも認め、励まし、もっともっと自分からすすんで仕事を行える子供に育てていきたいと考えています。

(生活指導部)

